

えんがわ

第41号

2010年8月発行

発行元 衣笠病院グループ
衣笠病院内 須賀市小矢部
2-23-1
TEL 046-852-1182

人が触れ合う場

在宅かわらばんのタイトルが「えんがわ」と知り、私が住んでいた田舎の家にも「えんがわ」があったことを懐かしく思い出しました。

当時は、近所の家も同じようなつくりで、道路の目の前にあった「えんがわ」で子供たちは遊び、大人たちは話したり食べたりしていました。今考えるとそこが家族以外の人との交流の場所であり、家にいながら外の世界を感じることでできるコミュニケーションでした。私は遠い昔、自動車、自転車そして足音が近づいては遠くに去っていく日常の音を感じながら、星空を眺

め、ラジオのFM放送から流れる城達也のジェットストリームに耳を傾けながら、悩み多き思春期から大人に成長したように思います。また、背中に感じる木の感触は寒い時期は暖かく、暑い時期は涼しく気持ちの良いものでしたし、何よりも絨毯と違い清潔感がありました。

人間関係が閉鎖的になり、物騒な時代でもありませんので「えんがわ」があった時代に帰ることは少々無理ですが、ひとりひとりが「えんがわ」のような存在として暮らしていけば、今後更に加速する高齢社会にも立ち向かっていけそうに思えませんか。

衣笠病院看護部長

秋山みつえ

えんがわ在宅モビリティ

安心できる居場所
はありますか？

人は、人の中にいてこそ、生きて生かされているなあと最近つくづく実感しています。

衣笠ホームには、シヨートステイ（十名定員）を利用されている方々がいらつしやいます。なるべく家庭で過ごされているような環境を心がけてお迎えしていますが、初めて利用される方は、不安と緊張で表情も硬く、お部屋に籠もりがちです。

しかし、ご利用を重ねていくうち場所に慣れ、職員に慣れてだんだん個性を發揮されます。ご家族には、なかなか素直に「えんがわ」に「ありがたう」の言葉を自然に発せられ、その方なりに社会性を持って頑張つて

いらつしやる姿があります。人とのかわりによつて生じる心の動きは、良くも悪くもその人を活性化させるチャンスではないかと思えます。

お年寄りも、家だけでなく、他人との生活の中での自分の居場所を作りあげられたら幸福ですね。それは、ご家族にとつても、安心して休養できる日々につながります。

心も体も自分一人で元気を保つことは、なかなか難しそうです。新しい居場所作り、チャレンジしてみませんか！

衣笠ホーム
シヨートステイ
ユニット・
ユニットリー
ダー

松田恵子



夏になると、夏というのはこんなに暑いものだったのかと思ひ知らされます☆★